

●交流促進●

島が中心となったイベント開催で
交流人口の拡大を

愛媛県松山市総合政策部坂の上の雲まちづくりチーム

◆島しよ部の概況と「愛ランド里島構想」の策定

青い海がある かもめがとんでいる

白い砂がある 裸足できませんか

松山市の島しよ部へ向かうフェリーに乗船すると、この曲が港への到着を知らせてくれる。一番の歌詞では旅人を島へと誘い、二番では島を離れた人を思い語りかける、この「白いかおりの島へ」という曲は、平成一七年一月に松山市が北条市、中島町と合併する以前の同元年に旧中島町でつくられたもので、中島を第二のふるさとと公言する坂本冬美さんが歌っている。

本市の島しよ部は瀬戸内海西部、広島県や山口県の県境伊予灘に位置し、前述の市町村合併で、もともと松山市にあった興居島、釣島の二島に加え、旧北条市からは安居島

が、また旧中島町からは睦月島、野忽那島、中島、怒和島、津和地島、二神島の六島が新たに加わり、数多くの魅力ある地域資源がのこる有人島九島を擁することとなった。

しかしながら近年では、島の基幹産業である柑橘栽培や漁業の低迷と相まって、過疎化・高齢化による人口減少が急速に進み、生活共同体としての集落機能の低下やコミュニティの維持など島を取り巻く環境は極めて厳しい状況となっている。

そこで、このような状況を打開するため、島しよ部の持続的な発展と活性化を図ることを目的とした「愛ランド里島構想」を平成二四年三月に策定した。

通常、「離島」は「離れた島」と書くが、本市では、人々が愛する懐かしい「ふるさと」をイメージして、「里の島」



と書いて「里島^{りとう}」と呼び、目指す将来像を「島びとが活き活きと輝く笑顔あふれる里の島」としている。

この将来像の実現に向けて、産業、環境、地域、教育や文化、福祉の五つの分野ごとに立てた基本政策のもと、一九の政策と三八の施策を体系化したほか、八つの重点プロジェクトを掲げ、「『暮らしやすい島』をめざす取り組み」として、

- ① 「海上交通の利便性の向上」
 - ② 「安全で安心して暮らせる島づくり」
 - ③ 「明日を担う人材の育成」
 - ④ 「産物の販売促進・販路拡大」
- 「『第二のふるさと』をめざす取り組み」として、

- ① 「定住の促進」
- ② 「『里島ツーリズム』の促進」
- ③ 「『里島ブランド』の確立」
- ④ 「未利用施設の利活用」

など、構想の具現化を進めている。

このような中、平成二五年の離島振興法の改正の目玉の一つとして、ソフト事業の推進につながる離島活性化交付金が創設されたことから、本市ではこの交付金を活用し、「瀬戸内しまのわ2014」や「里島出会い創出事業」などに取り組んでいる。



サイクリングイベントの様子。しまのわポーズをきめる参加者たち。

◆「しまはく」の経験が活かされた 「瀬戸内しまのわ2014」

「瀬戸内しまのわ2014」は、愛媛県や広島県及び関係市町が連携し、瀬戸内海の島しょ部や臨海部を舞台として、地域の宝の磨き上げと戦略的かつ効果的な観光プロモーションの実施により、交流人口の拡大や、継続的な瀬戸内エリアの活性化につなげることを目的としたイベントである。今年三月二一日の宮島でのオープニングを皮切りとして、大小合わせて三〇〇を超えるイベントを展開し、一〇月二五日のクロージングイベントをもって終了することとしている。

本市でも、三月に開催した「チャーター船de里島めぐりサイクリングin中島・興居島」や、日本最大級の大型帆船「日本丸」を公開する「しまのわ まるごと しまフェスタin三津浜・道後」などのほか、島しょ部の方々が中心となった二四の民間企画イベントを展開。八月末までに約一〇万人もの方に島の魅力を体感していただくなど、現時点では予想以上の実績を上げている。

その最たる要因は、平成二二年度に「松山島博覧会（通称…しまはく）」を開催した結果、交流人口の拡大や島びとがまちづくりに取り組む意識の醸成が図られたことにある。また、こうした意識のほかにもイベントの実施で培われた

ノウハウや島びととの信頼・協力関係など、「人の和」が広がったことも大きい。

◆盛況だった出会い創出イベント

「里島出会い創出事業」は、「愛ランド里島構想」の重点プロジェクトに掲げた「定住の促進」に向けて、首都圏での島しょ部の魅力のPRや、島の独身男性を対象とした出



出会いイベントではみかん狩りによる交流も行われた。

会いの場の創出に取り組むもので、平成二五年度から実施している。

昨年度は、島の独身男性の同行のもと、東京において首都圏の独身女性をターゲットとした島しょ部のPRを行い、出会いイベントへの参加を促した上で、中島と興居島においてそれぞれ一回ずつ、一泊二日の出

会い創出のイベントを開催した。

延べ二〇名の県外女性が参加した島でのイベントは、いずれも島内観光やみかん狩りなど島ならではの内容。参加女性は島の男性たちとの親睦を図りながら、最終的に延べ一組のカップルが成立した。

今年度は、各島で独身男性へのヒアリングを個別に行いながら、島しょ部の男性の結婚に対する意識や課題の共有に取り組んでいるほか、今後行う出会い創出イベントの開催前に、女性への接し方や接遇マナーに関するセミナーを予定するなど、より島しょ部の独身男性に寄り添った取り組みを進め、定住の促進につなげたいと考えている。

◆「島ひとが活き活きと輝く 笑顔あふれる里の島」を目指して

本市では「愛ランド里島構想」を策定し、島しょ部の継続的な活性化を目指した取り組みを進めており、離島活性化交付金の創設目的とも合致することから、その方向性を変えることなく交付金が活用できた。

残りわずか「瀬戸内しまのわ2014」は終了するが、イベントを一過性のものに終わらせることのないよう、しまのわで生まれた「人の和」やイベント実施のノウハウを今後活かすことが現在の課題である。引き続き交付金を有効に活用しながら、「愛ランド里島構想」の具現化に取

り組んでいきたい。

なお、冒頭で紹介した「白いかおりの島へ」には三番の歌詞があり、最後はこう結ばれている。

みんな明るい 笑顔の花が咲いて

島は花ざかり しあわせ花ざかり



興居島の観光スポット「恋人峠」で瀬戸内海の眺望を楽しむイベント参加者の皆さん。